

## 中国の子供の性格、親の養育態度及びその関連について

— 日本との比較研究を通して —

張 美 蓉

### 1. 問題意識と目的

1978年、中国政府が急増する人口の抑制のために一人っ子政策を打ち出して以来、中国の一人っ子は98%にまで達している。親としては、このただ一人の子どもに将来への期待などすべてをかけている。そこで、子どもへの期待過剰による養育態度が行動化しすぎ、逆に不満の方向に走りやすい。一方、親の期待に反して、相対的には子どもの方は、自制力が低く、攻撃性も多く見られる。さらに、一人っ子であるがゆえに親からの愛情が多過ぎて、必要以上に心配をかけたり、世話をしたりする結果、子供達は、我がままで、依存性が強く、中には退行的性格すらよく見られる。今の中国では、日本と違い、親が一人しか子どもを生めない状況下に置かれているのは特徴であり、一方、日本では産児制限がなくても、時代の発展とともにすでに少子化社会に入ったのである。また、文化的背景としては、中国の伝統的な「望子成竜」の養育態度に対して、日本は伝統的な「人並み」や「一人前」という養育態度が主流である。このような親の養育態度の相違の存在は必ず中日両国の子供の性格形成に大きな違影響を与えている。そこで、本研究では、中日両国の親の養育態度の相違とそれぞれどのように子供の性格形成に関わっているのかを比較し、中国の子供の性格と親の養育態度及びその関連を調べ、同時に中日両国の子どもの性格と親の養育態度との関連の類似点と相違点をも明らかにすることを目的とする。

### 2. 方法

調査対象は中国大連市と日本名古屋市の小学校4年生の児童であった。予備調査においては、中国側は265名（男子136名、女子129名）、日本側は154名（男子70名、女子84名）を対象にして分析を行った。本調査においては、中国側は596名（男子300名、女子296名）、日本側は455名（男子233名、女子222名）を対象にして分析を行った。

調査内容は子供の性格テスト、子供用親の養育態度テストであった。予備調査によって独自に作成し、妥当性及び信頼性が確認されたものを使用した。

### 3. 結果及び考察

#### (1) 子供の性格について

まず、子供の性格テストの作成についてである。本テ

ストを作成するときに設定した8カテゴリーをもとにして、相関分析と $\alpha$ 係数による信頼性の検証と項目の選択を行った。最終的には、顕示性、劣等感、自制力、依存性、退行性、攻撃性と社会性の7カテゴリーの45項目で性格テストを構成した。

次に、本調査の結果についてまとめる。実施された子供の性格テストの45項目に対して相関分析を行った。その結果としては、全7カテゴリーの45項目が全部保留された。そして、各カテゴリーに対して $\alpha$ 係数を求めた結果、テストの信頼性が確認された。各カテゴリーの平均得点の最大値は両国が共に顕示性であったが、最小値では、中国側は社会性であり、日本側は退行性であった。平均点2位となっているのは、中国側は劣等感であり、日本側は攻撃性であった。全体的に見れば、各カテゴリーの平均得点は中国のほうが低い。この結果では、顕示性の得点は高いほど高い顕示性性格傾向を示し、劣等感の得点は高いほど劣等感の強い性格を示す。退行性の得点は低いほど低い退行性性格傾向を指す。社会性の得点は低いほど高い社会性のある性格傾向を示すことになる。即ち、向社会的な性格を顕著に現わしている。

さらに、子供の性格傾向の性差については、中国側のデータでは顕示性、依存性と攻撃性において、女子より男子のほうが強いとみられた。自制力と社会性については女子より男子のほうが高い平均点が出たが、実際は男子の低い自制力と低い向社会性を示している。一方、日本側のデータは自制力、劣等感、退行性においては男子より女子のほうが高い。依存性と攻撃性については女子より男子のほうが高いと示された。

#### (2) 親の養育態度について

まず、親の養育態度テストの作成についてである。本テストを作成する時に設定した不満、非難、厳格、期待、干渉、心配、溺愛と盲従の8つのタイプをもとにして、相関分析と $\alpha$ 係数による信頼性の検証と項目の選択を行った。最終的に、8つのタイプ49項目の親の養育態度テストを作成した。

次に、本調査の結果についてまとめる。実施された親の養育態度テストの49項目に対して相関分析を行った。その結果としては、全8タイプの49項目が保留された。そして、各タイプに対して $\alpha$ 係数を求めた結果、テスト

の信頼性が確認された。両国の平均得点の最大値は中国側は心配であり、日本側は不満であった。最小値は、両国に共通する非難タイプであった。平均点の2位となっているのは、中国側は期待であり、日本側は心配であった。心配、不満と期待の得点は高いほどそのタイプの養育態度を示す。

また、親の子供に対する養育態度の性差については、中国側のデータでは、女子より男子のほうに親は不満、非難、厳格、期待、干渉的態度を取りやすい。日本側のデータでは心配において、親は男子より女子に心配的態度を取りやすい。非難については、女子より男子のほうに非難的態度を取りやすいという結果が出ている。

### (3) 子供の性格と親の養育態度の関連について

相関係数は0.3以上の強い関連があることから、以下のように考えられる。

まず全体的に見る。中国側は：親は不満な態度なら、子供のほうは自制力が低く、顕示的、攻撃的性格傾向になる。親は非難的態度なら、子供のほうは顕示的、劣等感が強く、自制力が低く、依存的、退行的、攻撃的と非社会的性格傾向と関連している。親は厳格な態度を取れば、子供のほうは自制力が低い性格傾向を見せる。親は溺愛的態度を取ると、子供のほうが依存的、退行的で、攻撃的な性格傾向になる。親は盲従的態度を取ると、子供のほうが顕示的、自制力が低く、依存、退行と攻撃的性格傾向になる。日本側は：親は不満な態度なら、子供のほうが中国と同じような関連を示している。親は非難的態度なら、子供のほうが顕示的、攻撃的性格傾向にある。親は厳格な態度を取れば、子供のほうも顕示的、攻撃的性格傾向を示す。親は期待的態度を取れば、子供のほうは顕示的、自制力が低い性格傾向を示す。

次に、性差について見る。中国側は：親の不満な態度で、女子は男女全体と変わらないが、男子は劣等感が低く、非社会的性格との関連が強くなっている。親の非難的態度で、男子のほうは本調査の所定のあらゆる性格と関連性を持っていて、女子のほうは劣等感と社会性との関連が弱く見える。親の厳格な態度で、男子のほうは顕示的性格に強い関連があるが、女子のほうは本調査の所定のあらゆる性格との強い相関が得られなかった。親の溺愛的

態度で、男子のほうは攻撃的性格傾向との関連が弱く、女子のほうは自制力との関連が強く見えた。親は盲従的態度で、男子のほうは男女全体と全く変わらず、女子のほうは顕示的性格傾向との関連が弱く見える。日本側は：親の不満な態度で、子供の性格はやはり中国とほぼ同じような関連がしている。親は非難的態度を取れば、男子のほうは非社会性との関連が強くなって、女子のほうは自制力が低いことと関連してくる。親の厳格な態度で、男子のほうが男女全体と全く変わらないが、女子のほうは中国の男子とほぼ同じような関連を示している。親の期待的態度で、男子のほうは顕示との関連が強く、女子のほうは変わらない。親の干渉的態度で、男子のほうは自制力が低く、顕示的性格傾向になり、女子のほうは男女全体と近い、強い相関が得られなかった。

## 4. 結論

①両国の子供は共に顕示的性格傾向が示された。中国の子供は顕示性、依存性と攻撃性性格傾向は女子より男子のほうが強い。自制力と向社会性性格傾向は男子より女子のほうが高い。日本の子供は顕示性、社会性性格傾向の男女の差がなく、依存性と攻撃性性格傾向は中国と同様で、自制力、劣等感、退行性性格傾向は男子より女子のほうが高い。

②両国の親の養育態度は中国側は心配であり、日本側は不満であった。中国の親は子供に対して女子より男子のほうに不満、非難、厳格、期待、干渉的態度を取りやすい。日本の親は男子より女子のほうに心配的態度を取りやすく、女子より男子のほうに非難的態度を取りやすい。

③親は不満な態度を取ると、両国の子供の性格パターンが同じである。親は非難的態度を取ると、両国の子供の性格では、中国側は本研究の7カテゴリーとすべて関連があり、日本側は顕示性と攻撃性との強い関連がある。親は厳格な態度を取ると、子供の性格は中国側が自制力が低い、日本側が顕示、攻撃的である。親は溺愛的態度を取ると、中国の子供の依存、退行、攻撃的性格と関連が強い。親は期待、盲従的態度を取ると、日本の子供の顕示、攻撃、自制力が低いなど性格との強い関連が見える。